

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、勉強は大切だと考えている生徒は多い一方で、スマートフォンなどでのSNSや動画視聴が長時間化している。

○国語では解答を文章で書く問題に対しての苦手意識が克服されつつあるが、数学では解答を言葉や数、式を使って説明する問題への苦手意識が見られた。

○定期考査等の結果から、基礎的・基本的な内容については、定着している生徒と不十分な生徒の二極化が見られる。個別に支援の必要な生徒も多く見られる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

○読み解く力育成を踏まえた授業展開や文章で説明するといった定期考査問題の出題の工夫をする必要がある。

○教科書などからインプットしたことをもとに思考し、わかったことを相手に伝える力を育成する必要がある。

○授業にタブレット端末を使用することが日常的である一方で、発表活動が少ない。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○板橋区授業スタンダードの完全実施。「ねらい」の明確化と「めあて」の提示。「まとめ」「振り返り」を実施する。

○言語活動（読み解く力・書く力）を通して課題解決能力を高め、思考力・判断力・表現力の向上を図る。

○個に応じた指導の充実。少人数指導（数学）の実施とICT機器（Chromebook）の活用を推進する。

○各種学力調査の分析と検証。学期ごとの「学力向上推進週間」の取組みを推進する。

○家庭と連携した家庭学習（学びの10か条を活用した学習習慣）の定着を図る。

○各種検定の受検促進。学校支援地域本部と連携を十分に生かす。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底	視点2 読み解く力の育成	視点3 総合的な学習の時間との連携
○授業の導入で学習のねらいを明確に示し、課題意識を持たせる。振り返りでは学習内容に関わるキーワードを示し、自分の学びを客観的に捉えられるようにする。	○定期考査で記述式問題を出題する。 ○学習の終末に振り返りの時間を設定し、学習した用語を正しく使えるようにする。	環境を柱とした総合的な学習の時間を構築し、自ら課題を設定し、情報を集め、整理分析し、まとめ、表現する活動を行う。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○学びのエリアの小中学校で合同の研修会や授業研究を行い、めざす子ども像の実現に向けた研究テーマや研究内容、方向性を共有する。 ○iCSの協力のもと、「これからの板橋」に向け、第7・8学年は地域清掃や職場体験を通して、第9学年は培った力を活かして個人のテーマを追求し、郷土愛を育成する。	○、各教科等の学習で学んだことをもとに、総合的な学習の時間において環境やSDGsに関する実社会や実生活から課題を見いだす。その上で、探究的な学習を充実させるために、自分で課題や目標を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ、表現する力を育成する。	○ドリルパークで個別の学習状況に最適化されたドリル学習を実施する。 ○学習したことをグループでプレゼンテーションソフトにまとめ、互いの考えを共有し、表現する力を育成する。